

普及項目	養殖
漁業種類等	貝類養殖
対象魚類	シカメガキ
対象海域	八代海

干潟漁場でのクマモト・オイスター量産

天草広域本部水産課・陣内 康成

【背景・目的・目標（指標）】

令和2年度（2020年度）に天草市有明町大浦地先の干潟漁場でクマモト・オイスターの小規模な養殖試験を実施したところ、温湯処理区では生残率、成長ともに良好な結果が得られた。

このことから、令和3年度（2021年度）は、同漁場でクマモト・オイスターの量産を目指し、11月末時点の生残率50%以上（生産者への種苗配付時との比較）と殻高50mm以上50%以上の2つの指標を目標とした。

【普及の内容・特徴】

月日：令和3年（2021年）4月10日～11月19日

場所：熊本県天草市有明町大浦地先（図1）

参加者：生産者1名、水産課1名、熊本県水産研究センター1名

供試貝：熊本県が公益財団法人くまもと里海づくり協会に委託し種苗生産したクマモト・オイスター種苗（①令和2年11月11日配布（平均殻高44mm）12,840個、②令和3年4月9日配布（平均殻高33mm）12,000個）

内容：干潟漁場に竹の支柱を立て、支柱間にロープを張り、このロープに直径45cm、高さ20cmの円筒型の飼育カゴを垂下し、クマモト・オイスターを収容した。垂下する位置（吊り高）は、令和2年度（2020年度）の試験で最も高い生残率であった潮位表基準面上方101cmとした。また、飼育期間中、40℃1時間の温湯処理を3～4週間に1回の頻度で行い、温湯処理の際生じた死殻を計数し、生残個体数を推計した。

【成果・活用】

生残個体数の変化を表1に示した。温湯処理毎に6%～22%がへい死し、期間中の生残率は36.4%であった。生残率が目標の50%以上に届かなかった原因の一つとして、4月下旬に実施予定だった初回の温湯処理が養殖業者の体調不良により実施できなかったことが考えられた。

飼育試験終了日の11月19日に1カゴ中の全個体の殻高を計測した結果、殻高50mmを超えたものの割合は46.5%であった（図2参照）。また、12月3日に飼育カゴの吊り高を計測したところ116cmであった。これは温湯処理のためにカゴの付け外しを繰り返すうちにずれが生じたものと推測された。

次年度は、4月中に第1回目の温湯処理を実施するとともに、吊り高にずれが生じないよう多数の支柱にマーキングを施すことを徹底することで、クマモト・オイスターの安定生産を実現したい。

【達成度自己評価】

4 目標はほぼ達成できた（76～100%）



図1 飼育試験実施個所

表1 生残個体数の推移

	4月10日	5月27日	6月28日	7月28日	8月28日	9月26日	10月23日	11月19日
飼育数	24,840	21,900	18,656	17,554	15,643	12,163	10,155	9,037

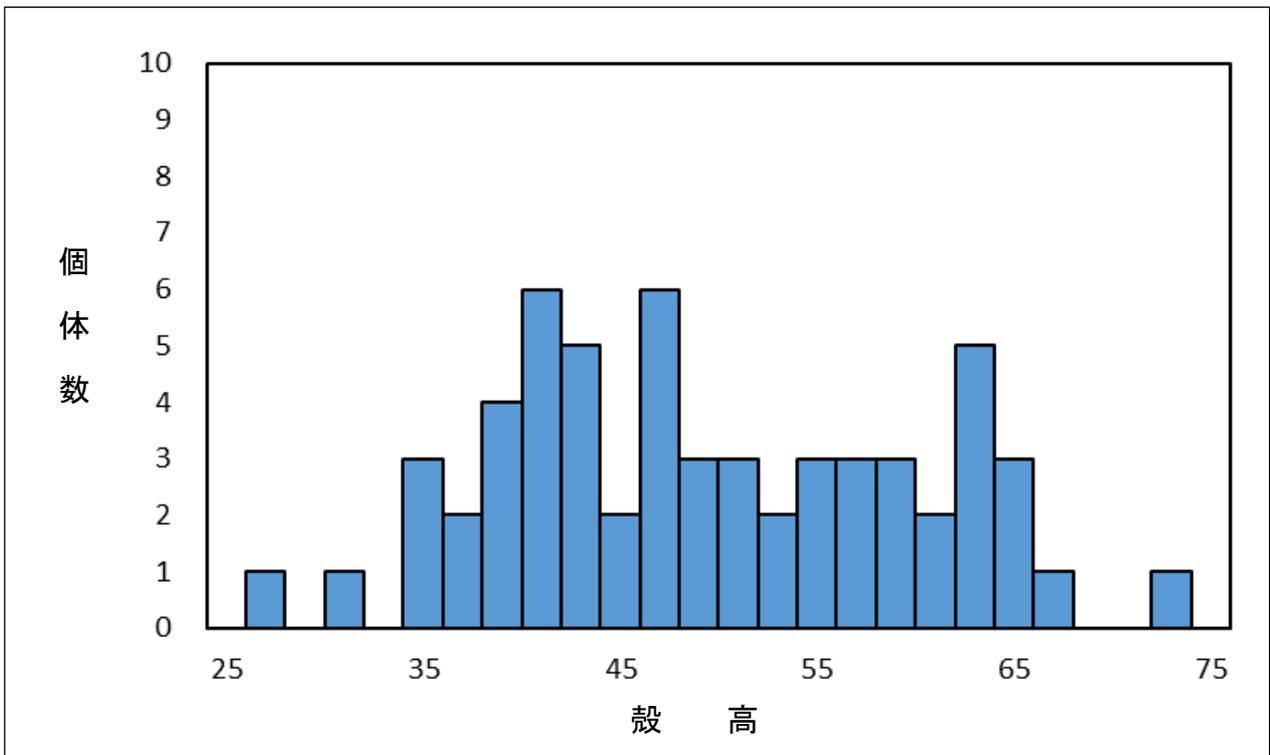


図2 クマモト・オイスターの殻高組成 (R3. 11. 19)